

2014年3月28日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、市民公開講座を定期的に開催しています。

3月のテーマは「身近にいます、あなたの薬剤師。」はじめに組橋由記第二調剤課長が薬剤師の役割や存在意義について講演し、「薬について疑問・不安を感じたときは、薬の専門家である薬剤師を活用してください」と語りました。続いて猪本尚徳薬剤師が、薬の正しい使い方や保管方法について解説。地震などの災害に備えて、『お薬手帳』を使った薬の管理を呼びかけました。最後に講演したのは、吉田郁子第一調剤課長。薬を飲むときに注意が必要な、ほかの食品や健康食品との飲み合わせについてレクチャーしました。参加者数は60人でした。



2014年2月28日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、今年度から市民公開講座を定期的に開催しています。

2月のテーマは「春はアレルギーにご用心！」。花粉の飛散量が増えるこの季節、多くの方が悩んでいるアレルギー性鼻炎とアレルギー性結膜炎について、秋月裕則耳鼻咽喉科副部長と富田真知子眼科指導医師が、効果的な予防法や薬物・手術による治療法をレクチャーしました。参加者数は90人でした。



2014年1月24日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、今年度から市民公開講座を定期的で開催しています。

1月のテーマは「脳卒中診療の現状・未来」。新野清人第二脳神経外科部長・佐藤浩一血管内治療科部長・仁木均神経内科指導医師の3人が、脳卒中の原因や自宅でできる予防法、それぞれが専門とする外科的・内科的治療法について解説しました。脳血管疾患は日本人の死因第3位とあって、市民の皆様の関心も高く、145人という多くの方々にご参加いただきました。



2013年11月22日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、今年度から市民公開講座を定期的に開催しています。

11月のテーマは「いつやるの！？今でしょ！！インフルエンザの感染予防」。これから冬本番を迎えるにあたって、流行が予測されるインフルエンザの効果的な予防方法やインフルエンザワクチンの有効性、インフルエンザウイルスの種類や特徴などについて、感染管理認定看護師の角谷美千代看護師が講演しました。参加者は50人でした。



次回の市民公開講座の開催は1月となっております。来年も多くの方のご参加をお待ちしております。

2013年10月31日／第11回心臓病ビジュアル市民公開講座を開催しました

「カテーテルって痛いの?」「血管の中に管を通すって、どうやって!?!」そんな疑問に答える市民公開講座を、10月31日に開催しました。

当日は実際の検査や治療のようすを、徳島赤十字病院から徳島市のあわぎんホールへ生中継。参加した224人の方々は、患者さんの手首からスルスルとカテーテルが入っていくさまに見入っていました。また、術者がスタッフにキビキビと指示を出したり、スタッフと議論しながらステントの長さを決めたりする場面では、司会の日浅院長が「カテーテルを使った検査や治療はチーム医療。医師、看護師、臨床工学技士など多職種の連携によって成り立っているのです」と解説しました。



当院会議室での中継のようす

中継の合間には、当院と連携病院の医師らがカテーテルの使用方法や最新のステント技術などについてレクチャー。また、検査や治療、講演のもようは当院401会議室にも中継され、入院患者さんやそのご家族、職員など50人が視聴しました。

2013年10月25日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、今年度から市民公開講座を定期的に開催しています。

10月のテーマは「タバコの有害性と禁煙の方法」。徳島大学大学院の埴淵昌毅准教授をお招きし、喫煙のリスクやニコチン依存症、具体的な禁煙の方法などについて講演いただきました。埴淵先生は「日本人の喫煙率は低下していますが、タバコ関連の病気での死亡者数は増加しています。現在、多くの禁煙希望者に保険での禁煙治療が可能になっていますので、現在タバコを吸っている人、身の回りに喫煙者がいる人は、ぜひ一度禁煙について真剣に考えてみてください」と語られました。大型台風の接近による悪天候の中、一般市民・職員など64人に参加いただきました。



講演する埴淵准教授

2013年9月15日／ミリカホールで市民公開講座を開催しました

地域の方々に病院をより身近に感じてもらうため、今年度から定期開催している市民公開講座。9月15日には「減らそう糖尿病！なくそう合併症！～楽しく学ぶ糖尿病対策～」をテーマに、小松島市医師会・武田薬品工業と共同で、小松島市のミリカホールにて開催しました。

セッション1では、当院の栢下淳子栄養課長が「秋こそ食事療法～秋の味覚を味方につける～」と題して、日常生活でできる食べ方のコツや野菜の効用などについて解説。「代謝の上がる秋に正しい食習慣を身につけることができれば、1年を通しての体重コントロールも楽になります。楽しく食事をしながら、健康を維持していきましょう」と語りました。

セッション2では、徳島大学糖尿病臨床・研究開発センターの松久宗英特任教授が「進化する糖尿病学～糖尿病に負けないコツ、伝授しましょう～」と題して、国内外における糖尿病の現状やその成因、がんや認知症などの新しい合併症、進化する治療法などについて講演。松久氏は「糖尿病患者にとって、最良の主治医は自分自身。糖尿病連携手帳への記入はもちろん、自覚症状がなくても年に一度は検査を受けてください」と語りました。

当日は台風18号の影響による強い雨にも関わらず、133人が参加。真剣に耳を傾けていました。



ミリカホール



日浅院長



栢下栄養課長



松久徳大特任教授

2013年8月23日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、今年度から市民公開講座を定期的を開催することと致しました。

8月のテーマは「気をつけよう！あなたを狙う怖い“虫”」。暦の上では秋ですが、まだまだ暑く、虫も多い季節が続いています。今回の講座では浦野芳夫皮膚科部長が、蚊による感染症から最近話題のマダニによる重症熱性血小板減少症候群、ムカデやクモによる咬傷まで、身の回りの「虫」によって引き起こされる病気やけがの症状・特徴・対処法などについて説明しました。参加者は109人でした。



2013年7月25日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、今年度から市民公開講座を定期的に開催することと致しました。

7月のテーマは「大規模災害への備え」。東南海地震が発生した場合、大きな被害があると想定されている徳島県、こと海沿いの小松島に住む方々にとっては、非常に関心の高いテーマです。今回の講座では福田靖救急部長が、徳島赤十字病院の災害対策、DMAT（災害派遣医療チーム）の概要、災害に対する心構えなどについて、参加者104名にレクチャーしました。

福田部長は「災害時には、津波などで病院機能が麻痺することも考えられます。しかし『自助・共助・公助』を一体的に行っていくことで、被害を最小限にとどめ、早期の復旧・復興につなげることができます。また、当院は津波の緊急一時避難所となっていますが、収容避難所ではないため、入院患者さん以外の方の食料は備蓄していません。津波の危険が去った後は避難所への移動をお願いします」と語りました。



2013年6月28日／市民公開講座を開催しました

徳島赤十字病院は、地域の皆様との交流を深め、病院をより身近に感じてもらうために、今年度から市民公開講座を定期的に開催することと致しました。2013年6月28日の講座には、114人もの方々にご参加いただきました。

テーマは「狭心症や心筋梗塞にならないために～でもなってしまったら～」。講師は大谷龍治第一循環器内科部長。狭心症・心筋梗塞のメカニズムやそのリスク因子、対処法、検査の種類や代表的治療などについてわかりやすく解説しました。写真や動画、イラスト、著名人の病気の例などが数多く用いられた講義に、参加された方々は傾きながら聴き入ったり、熱心にメモを取ったりしていました。質疑応答では不安定狭心症や心臓病への飲酒の影響などについて質問をいただきました。

最後に大谷医師は「急に心筋梗塞が起こるのではなく、前兆として不安定狭心症が起こる場合が多いので、おかしいと思ったらまずかかりつけ医に相談してください。また、狭心症や心筋梗塞にはならないに越したことはありませんが、因子のコントロールは難しいもの。取り返しのつかなくなる前に気付けば治療の手立てはあります。そして、なってしまった後は、因子の改善を真剣に行ってください」と結びました。

